特定非営利活動法人
まちなか研究所
わくわく

2013年度　事業報告書 -第10期-

当会の使命と基本理念

【使　命】 2004年設立（2005年2月法人認証）
すべての人々が、自ら暮らすまちを
想い、考え、納得してつくっていけるような市民社会の実現

【合言葉】
みんなで「決めて」みんなが「つくる」そんな社会づくりのために、
まちわくは人と組織を「つなぎ」「話し合う」場と社会環境をつくります。

【基本理念】
〇みんなで決めてみんながつくるまちづくりの活動と活動サポート
〇市民公益活動を行う団体の活動サポートと市民社会のインフラ整備
〇参加型の場づくりの企画運営と人材育成
〇地域のNPOモデルとなるような継続的な市民活動の組織運営

「まちづくり」は「ひとづくり」

① 社会に対し、ポジティブなアクションをしている人たちを応援し、タッグを組むことで

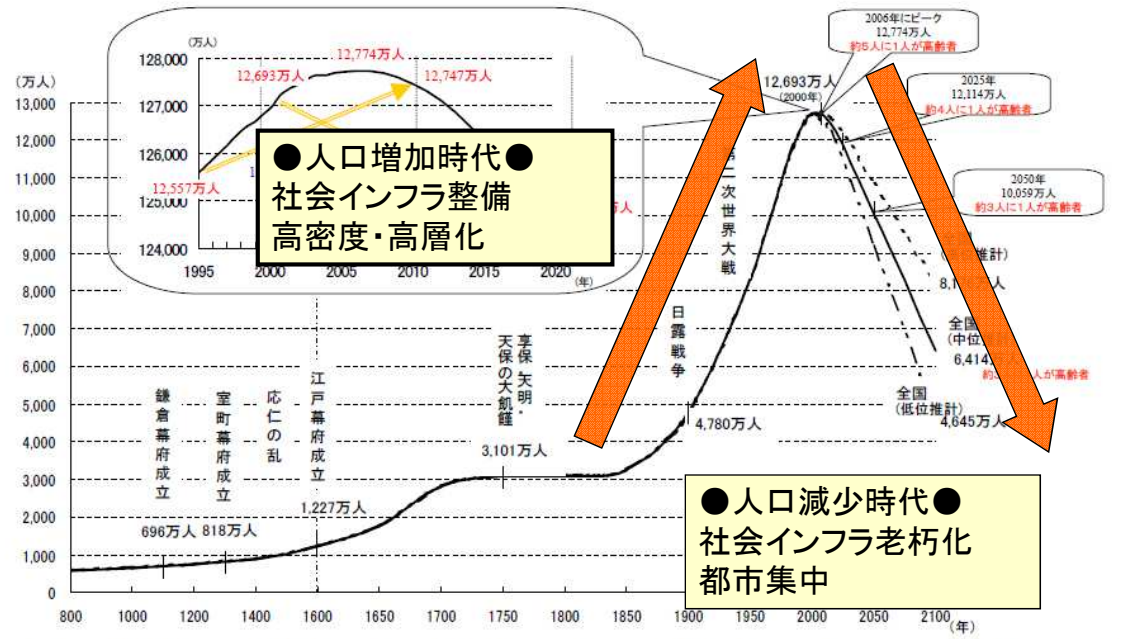
多様なコミュニティを育て、社会を変えていきます。

② 社会参加の機会を拡大します。

- ファシリテイティブな人材育成
- 異分野・異業種の協働の促進
- 地域の課題解決にチャレンジする人材の育成
- 市民の社会参加のしかけづくり

参考資料1 わが国の総人口の長期的推移

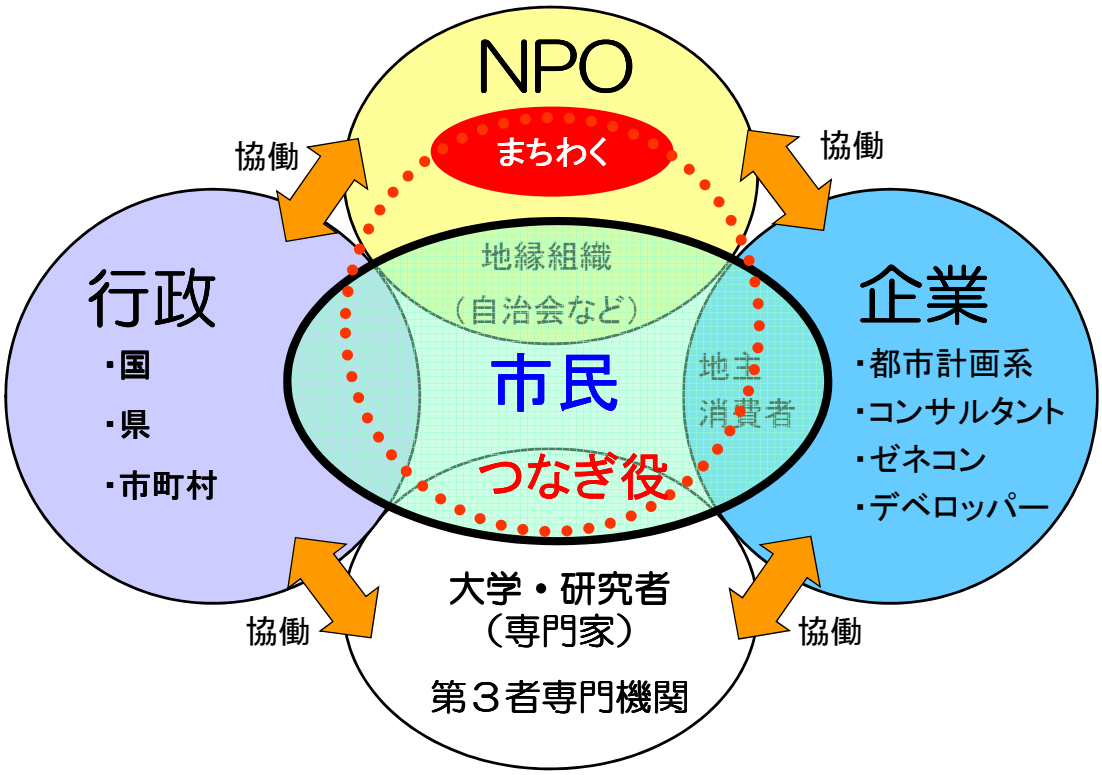
資料3 参考資料



(出典) 総務省「国勢調査報告」、同「人口推計年報」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成14年1月推計)」、国土庁「日本列島における人口分布変動の長期時系列分析」(1974年)をもとに国土交通省国土計画局作成。

1

当会の活動領域



２０１３年度の主な活動

・曙小学校での居場所づくりが地域運営へ

－学習支援のボランティアコーディネートを行い、学校＆PTAと連携し運営。
－PTAが中心となった地域組織（まちづくり協議会）立ち上げのきっかけへ。
－参加登録者85名。

・久茂地小学校が3月に廃校。区切りをつけ次の展開へ

－「久茂地小学校を存続させる会」構成団体として活動。3月で解散。
－久茂地小・前島小PTA執行部の会議サポートを5回行う。

・糸満市市民活動支援センターの運営3年目

－来所者・利用者は過去最高の837件。相談数も377件で過去最高。
－市民提案型まちづくり事業補助金の申請13団体。申請倍率2.0～2.5倍へ適正化。
－「第1回糸満まちづくりカフェ」を開催。36団体が出展。来場者700名。

・沖縄地域社会ビジョン大学院第3期を終え、修了生が51名へ

－2013年8月30日～11月2日の10週間で開催。
－14講座、4ゼミ、チームで企画提案（中間発表・最終発表）を実施。
－受講料（全課程40,000円、トライアル15,000円）での自主運営。
－第3期修了生は全課程コース15名、トライアルコース10名。

・ファシリテーター養成の主催講座を2回開催、73名が参加

－ 2013年10月20日、「ワークショップを『組み立てる』参加の場のプログラムデザイン」、参加者23名。講師：川中大輔氏。
－ 2014年3月21日、「話し合いで使える板書術＜初級編＞」、参加者50名（午前：23名、午後25名、ボランティア2名）、講師：宮道喜一氏

・ファシリテーターの派遣実績が過去最高の70件

－参加型会議研修分野の増加、円卓会議での板書、JICA青年研修での外国人向けのファシリテーション講座、企業内ワークショップのサポートなどの新規開拓

「久茂地小学校を存続させる会」最後の集い

沖縄地域社会ビジョン大学院2013

Special Thanks

- 地域情報誌「み～きゅるきゅる」ボランティア
  - 石井周、宇田智子、土屋佳子、當山加奈子、山脇佳子、和家若造
- 寺子屋ボランティア
  - 佐渡山美樹（育英義塾教員養成学院）、藤井理子（琉球大学）、平良彩香（沖縄大学）、與那覇萌（沖縄大学）、前里和（沖縄国際大学）、東江紀幸（琉球大学）、大城典己（育英義塾教員養成学院）、城間敬工（育英義塾教員養成学院）、下地百咲（育英義塾教員養成学院）、前森杏菜（育英義塾教員養成学院）、上門奈保子（社会人）、鍋島のりこ（社会人）
- 円卓会議ファシリテーショングラフィック補助ボランティア
  - 山田涼子、小栗由香
- ファシリテーター養成講座運営ボランティア
  - 前原真史（琉球大学）、志伊良早紀（琉球大学）
- 糸満市市民活動支援センターインターン
  - 大城友梨佳（名桜大学3年）2週間、金城魁斗（沖縄水産高校2年）1日、玉城正太郎（沖縄水産高校2年)1日
- 沖縄地域社会ビジョン大学院参加費割インターン
  - 呉屋真心、石川愛乃（沖縄国際大学）、仲村隆寛（沖縄国際大学）

２０１３年度事業一覧　-1

コミュニティ支援事業部

- 第6回マチグヮー楽会の開催
- 地域情報誌「み～きゅるきゅる」
- 久茂地小学校を存続させる会
- 「放課後寺子屋教室」ボランティアコーディネーター業務
- 与那原町景観計画基礎調査業務
- 強制割当土地に係る所有権等整理及びまちづくり事業基礎調査業務
- 沖縄県災害時要援護者避難支援計画促進事業サポート業務
- 福島県浪江町広報誌「なみえ」の取材者情報交換会への参加

ファシリテーター派遣事業部

- 研修・講座への講師派遣（21件）
- 委員派遣（5件）
- 「参加」で社会を変えるファシリテーター講座（2回）
- ファシリテーター派遣（40件）
  - 豊見城市宜保3号公園づくり（案）実施設計ワークショップ事業
  - 豊見城市景観計画策定委託業務支援
  - 他

２０１３年度事業一覧　-2

NPO活動支援事業部

- 糸満市市民活動支援センター委託事業
- 沖縄地域社会ビジョン大学院2013
- 観光バリアフリーサポーター育成事業
- NPO法人事務力セミナー＆検定（初級）
- 「わくわくnight」の開催
- おきなわ市民活動支援会議への参加
- NPO法人会計基準調査

みんなで決めてみんながつくる
まちづくりの活動と活動サポート
ー コミュニティ支援事業部 ー

●2013年度　方針
①久茂地小学校、前島小学校の統廃合に向けた地域の活動をサポートしていく
②子どもたちの居場所を地域で支えるしくみづくりを行う
③マチグヮー楽会の検証を行い各通り会との関係性を継続していく

第6回マチグヮー楽会

2013年度実施事業-①

第6回マチグヮー楽会の開催

【日時】2014年2月20日(木)・21日(金)・22日(土)
【会場】なは商人塾、にぎわい広場コミュニティルーム、第一牧志公設市場及び周辺
【内容】座談会Ⅰ「マチグヮーの過去・現在・そして未来へ　～チャレンジャーは商店街で学ぶ～」、座談会Ⅱ「沖縄商売(アチネー)史とマチグヮーの風景」、まちあるき
【主催】マチグヮー楽会
【共催】第一牧志公設市場組合、市場の古本屋ウララ

地域情報誌「み～きゅるきゅる」

1)Vol.8　特集:ユッカヌヒー　制作途中
【制作メンバー】5名
2)販売
【委託】エコショップがじゅまるガーデン／市場の古本屋 ウララ／ちはや書房／琉球帆布＆アート雑貨セレクトショップ 沖縄の風／桜坂劇場／ジュンク堂書店那覇店／リウボウブックセンターLIBRO(リブロ／宮脇書店 那覇国際通り店
【ネット販売】在庫切れとなったVol.2(久茂地)、Vol.3(前島)のPDFダウンロード販売

久茂地小学校を存続させる会

「久茂地小学校を存続させる会」構成団体として活動。2014年3月で解散。存続させる会とは別の動きで、久茂地小・前島小PTA執行部の会議サポートを5回行った。

「放課後寺子屋教室」ボランティアコーディネーター業務

1)曙小学校・PTAと連携し、放課後学習支援「寺子屋」を実施
【内容】那覇市立曙小学校で放課後学習支援を行うボランティアのコーディネート業務、学校・PTAと今後の運営組織体制を検討
【期間】2012年7月10日～2013年3月14日
【実施日】毎週水、金　14:30～16:30
【参加ボランティア人数】15名
【参加登録者】85名

福島県浪江町広報誌「なみえ」の取材者情報交換会に参加

1)10月、福島県郡山市にて開催された取材者情報交換会に参加。
主催:一般社団法人東北圏地域づくりコンソーシアム

2013年度実施事業-②

与那原町景観計画基礎調査業務

【委託元】与那原町→株式会社国建
【内容】与那原町景観計画策定に向けた基礎調査（景観資源マップの作成）

強制割当土地に係る所有権等整理及びまちづくり事業基礎調査業務

【委託元】一般社団法人日本補償コンサルタント協会沖縄支部
【内容】戦後の米軍基地設置により接収された住宅の移転先として強制的に割り当てられた住宅地が県内に多数存在する。権利関係の調整がされないまま緊急に行われたことなどにより、住宅環境の整備が進まない状況がある。那覇市松尾1丁目をモデル地区に定め、権利関係と現況について明らかにする。

沖縄県災害時要援護者避難支援計画促進事業サポート業務

- 沖縄県標記事業アドバイザーである桑原英文氏が代表をつとめるFEELDo研究員として宮道が携わる。
- 圏域（南部・中部・北部・宮古・八重山）事業説明＆意見交換会へ随行。
- 2月17（月）シンポジウム「深めよう地域の絆、高めよう地域の防災・福祉力」
- 2月18（火）19（水）本部町・中城村研修
- 社協、地域福祉担当行政、自治会、民生委員対象の防災プログラムとして、災害時系列ワーク等を実施。

事業ふりかえり

①第6回マチグヮー楽会の開催
運営メンバーのネットワークや専門性を持ち寄って開催。自主運営へ。また、外部のマチグヮーに関心ある人が関わる受け皿に育ってきていることを確認。

②「職場体験」は自走、「てくてく通信」情報更新なし
マチグヮー近隣中学校の職場体験は、第一牧志公設市場が独自に受入れを行っている。「てくてく通信」はマチグヮー関連のタグづけ管理を行えず。

③地域情報誌「み～きゅるきゅる」
vol8号の制作を再開したが、完成まで至らず。

④久茂地小学校を存続させる会
2014年3月末日の廃校に伴い、久茂地小統廃合反対の運動は区切り。行政、住民、近隣地域・商業者という多様な立場の合意形成の難しさが浮き彫りに。

⑤放課後学習支援「寺子屋」の学校・PTAとの連携
寄付を募るなど学校・PTAが積極的に動き、「曙小学校地区まちづくり協議会」（まち協）が立ち上がった。子どもたちの居場所づくりが地域運営へ。

⑥調査事業案件が増加
景観計画や割当土地に関する現況などこれからの地域づくりに向けた基礎調査業務案件が増加している。

次年度方針

①那覇のマチグヮーは公設市場の今後を軸に展開
マチグヮー楽会の事務局は継続。まちのたね通信のリニューアルに伴い、website「てくてく通信」の再構築を検討する。第一牧志公設市場のこれからの議論や意思決定に貢献することを軸に展開する。

②み～きゅるきゅる
再始動させVol8号を完成させる。また、「地域主体の地域調査と発信」についてまとめる。これまでの形での制作については区切りとし、今後の展開を検討。

③地域の選択をサポート（久茂地地区・曙地区）
久茂地地区では「久茂地小学校区自治会」、曙地区では「曙小学校区まち協」のそれぞれの地域の選択と活動をサポートしていく。それぞれの地域へのこれまでの関わりについては、地域組織支援の一モデルとしてまとめ発信する。

④コミュニティ支援事業の運営
当会のサポートメニュー化を目指した地域への関わり方と記録・発信を行う。また、地域の課題に直接アプローチする機会が多いため、課題の発信と支援性の資源（会費・寄付等）の循環を生み出す。

参加型の場づくりの
企画運営と人材育成
― ファシリテーター派遣事業部 ―

●2013年度　方針

①ファシリテーター養成講座を実施し、県内のファシリテーター人材のコミュニティを育てていく。
②「まちでの参加」「参加の場づくりの手法」「非営利組織のマネジメント」の専門性を深める
③外部ファシリテーターとの連携。（社協、行政、コンサル等）を中心に参加の場づくりのパートナーを開拓する。

第1回豊見城市景観まちづくり塾

2013年度実施事業

研修・講座事業（21件（前年度8件））

① 石垣市職員研修（依頼：石垣市）
② 福祉施設等ボランティア連絡会（依頼：糸満市社協）
③ 地域福祉担当者会議（依頼：南城市社協）
④ 沖縄市介護支援専門員定例会（依頼：沖縄市介護支援専門員連絡協議会）
⑤ 宜野湾市市社協職員研修（依頼：宜野湾市社協）
⑥ JICA青年研修（依頼：NPO法人レキオウィングス）
⑦ 会議づくり研修（依頼：沖縄共同青果株式会社）
⑧ 参加型会議研修（依頼：糸満市介護支援専門員連絡会）
⑨ てだこ市民大学(依頼：浦添市)
⑩ エコツーリズムガイド育成研修（依頼：日本環境教育フォーラム）

委員派遣（5件（前年度10件））

① 沖縄県ボランティア・市民活動支援センター運営委員（依頼：沖縄県社会福祉協議会）
② 糸満市社会福祉協議会評議員（依頼：糸満市社会福祉協議会）
③ 那覇市災害救援ボランティア推進会議委員（依頼：那覇市社会福祉協議会）
④ うるま市地域活動助成事業選考委員（依頼：うるま市）

ファシリテーター派遣事業（42件（前年度24件））

① 「参加」で社会を変えるファシリテーター講座を2回開催
1） ワークショップを『組み立てる』
～参加の場のプログラムデザイン～
【日時】2013年10月20日（日）　【参加者】23名
【講師】川中大輔氏（シチズンシップ共育企画　代表）
2） 話し合いで使える板書術　＜初級編＞
【日時】2014年3月21日（金・祝）
【参加者】50名（午前：23名、午後25名、ボランティア2名）
【講師】宮道喜一氏
※参加者を対象に「ファシリメルマガ」の配信開始。（毎月第2金曜配信。登録者57名。2013年度は7回配信）
② 久茂地・前島小PTA会議(全5回)(依頼：那覇市教育委員会)
③ 会議サポート（全5回）（依頼：NPO法人なはまちづくりネット）
④ 飲食店店長WSサポート(依頼：平井氏)
⑤ 沖国大岩田ゼミワークショップ（依頼：岩田直子氏）
⑥ 総合型スポーツクラブ座談会（依頼：（公財）沖縄県体育協会）
⑦ 那覇YEG円卓会議（依頼：みらいファンド沖縄）
⑧ やんばる木育円卓会議（全3回）（依頼：みらいファンド沖縄）
⑨ 豊見城市街区公園WS（全3回）（依頼：翔エンジニアリング）
⑩ 豊見城景観まちづくり塾（全3回）（株.国建）

事業ふりかえり

①ファシリテーター養成の主催講座を2回開催
プログラムデザインと板書術をテーマに開催し、73名が参加。板書術講座は午前、午後ともに定員に達し、講座後も中級編の開催を望む声も多い。

②ファシリテーターの派遣実績が過去最高の70件
参加型会議や地域福祉系WSの増加、JICA青年研修での外国人向けのファシリテーション、等の新規開拓。特に円卓会議を通じて、公式の場で板書する機会が増え、企業研修への派遣依頼もうまれた。

③ファシリ専用メルマガの配信
ファシリ講座参加者を対象に「ファシリメルマガ」の配信をスタート。ファシリテーションの実践の場の提供を行い、2名のファシグラボランティアの参加があった。

④外部専門家との連携
設計事務所と連携した公園づくりワークショップ（全3回）や都市計画コンサルタントと連携した景観まちづくり塾（全3回）などの外部組織との連携による参加の場づくりの機会を得た。

⑤前提条件や参加者状況の確認の重要性を再確認
複数回のWSを組み立てる上での前提条件や参加者状況の確認が不足していたケースがあり、立て直しが非常に困難であった。

次年度方針

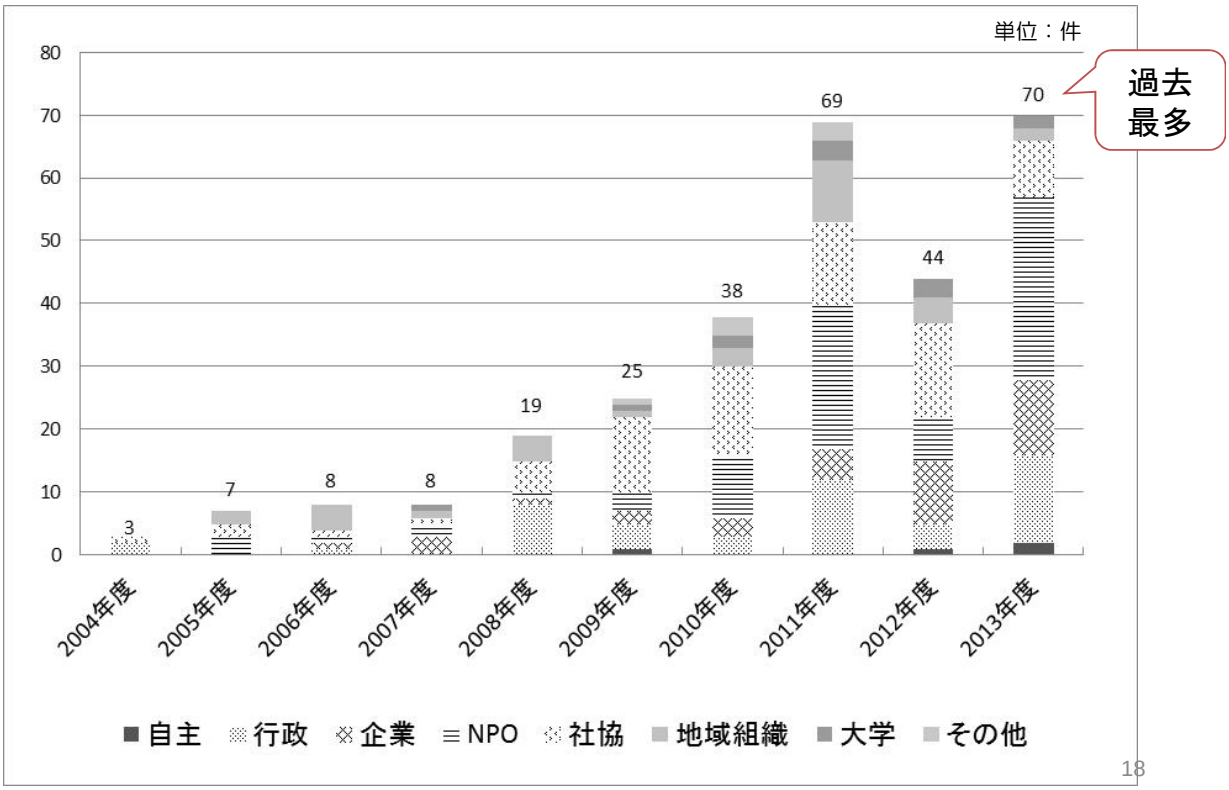
①ファシリテーションのテキストの作成と活用
ファシリテーションのテキスト（ブックレット）を作成し、ノウハウと事例の蓄積を行う。主催講座や外部研修会にて活用する。

②ファシリテーター派遣のメニューの見直し
これまでのファシリ実績と派遣費を掲載したメニュー表を作成し、HP等で発信する。
メニュー：1）参加型会議、 2）地域資源発掘・地域調査、 3）会議の板書、 4）ワークショップのプロセス・プログラムデザイン、 5）ビジョンづくり、計画づくり、 等

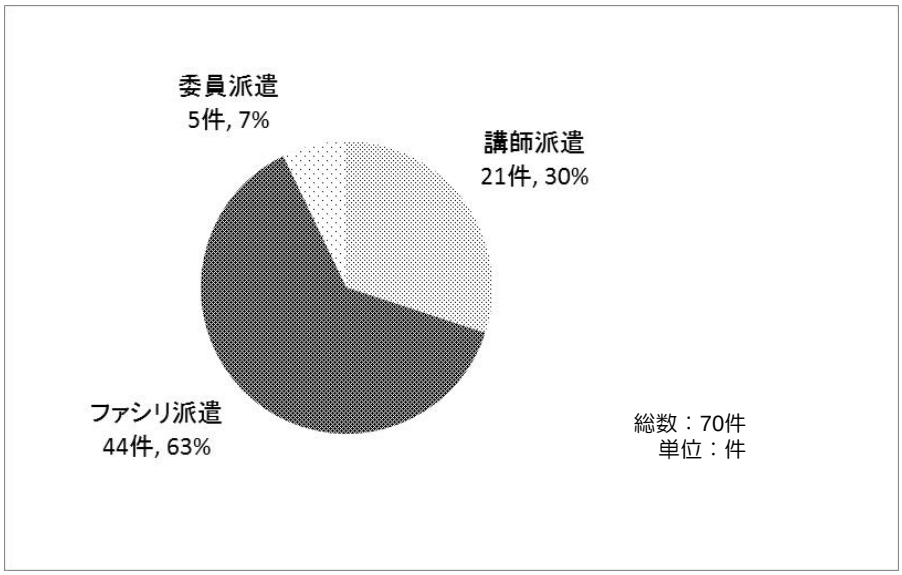
③ファシリ派遣の際の確認項目の作成
ファシリ派遣依頼を受けてからの前提条件や参加者状況、ステークホルダー等の確認項目を作成する。特に公園等公共施設や組織内会議等においては、土地の履歴や地域組織の状態、住民の状況等を把握する。

④外部ファシリテーターとの連携
外部ファシリテーターとの連携や主催講座参加者によるサポートボランティアの参加の機会を増やしていく。

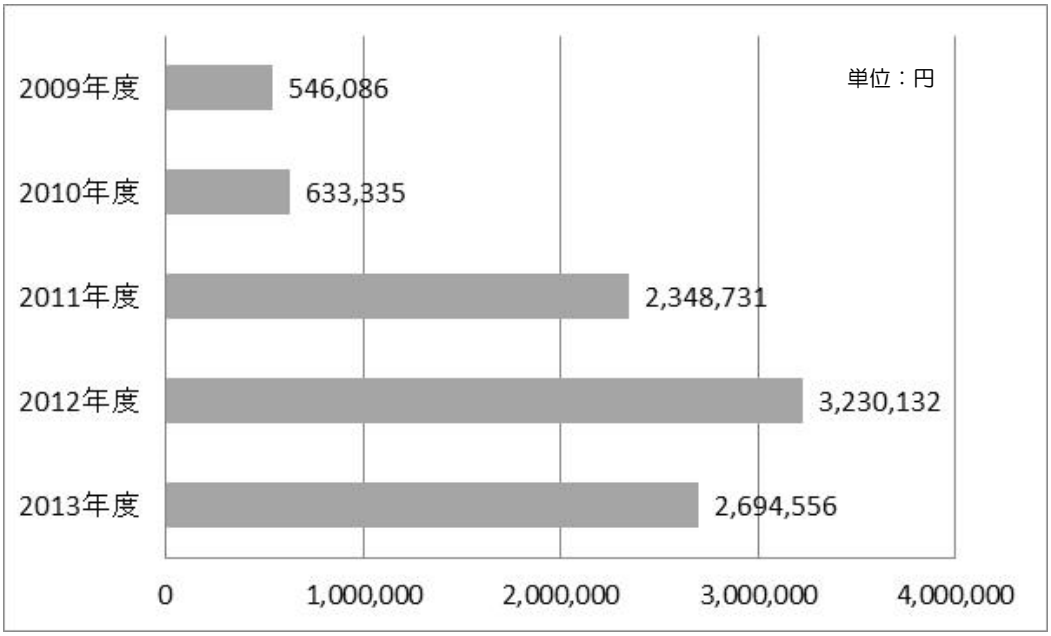
ファシリテーター派遣の経年実績（講師・ファシリ・委員・その他）



ファシリテーター派遣２０１３年度実績内訳



ファシリテーター派遣の収入実績



市民公益活動を行う団体の
「活動サポート」と「市民社会のインフラ整備」
－ ＮＰＯ活動支援事業部 －

●2013年度　目標

①糸満市センターに関わる人材の発掘と育成を行う。人口10万人以下の地域における市民活動支援のあり方を総括し、他自治体に対する新しい取組みの提案をまとめる。

②沖縄地域社会ビジョン大学院を開講し、大学との連携を模索しながら自立運営を行う

③インターンやボランティアの受入れを行う。

NPO法人事務力セミナー＆検定（初級）

2013年度実施事業-①

糸満市市民活動支援センター委託事業

管理業務総計3,927件
（来館者837件、電話メール等2557件、センター外対応533件）

1)「糸満市市民提案型まちづくり事業」の企画推進
事務局2年目として、所管課とともに募集要項の見直しから報告まで一連の業務を行った（申請13団体・採択6団体）

2)「市民活動講座」の開催
今年度で3回目となる会計講座に加え、補助金申請書書き方講座を初開催した（申請書書き方:20名、会計:48名）

3)「まちづくりカフェ」の初開催
日時:2月16（日）10:00～16:00／参加数:35団体
場所:糸満市社会福祉センター／来場者数:約700人

4)「テーマ型座談会」の開催
前年度に引き続き、各テーマを決め着席者を選定し開催した
第3回地域防災（食）、第4回資源循環（まちカフェ振り返り）

5)市民活動相談、「専門家による相談会」の開催
相談対応数:述べ377件、コーディネート依頼増加
労務相談会（まちカフェ同時開催）、相談員:名城志奈氏

6)市民活動の見える化・情報発信
広報紙『日々是好日』:3ヶ月1回（計4号）、発行部数:約600部
ブログ:毎開館日更新、市民活動便利帳ｉいとまんページ製作

7)資源循環研究会
まちづくりカフェにおいてまちけっとによる検証をし、テーマ型座談会において振り返りを行いレポートにまとめた

8)農村地域再生発見事業
地域おこし協力隊を事務局としてサポート、対象が大里地区に決定し、吉本氏を招聘しむらづくり講演会を開催した

沖縄地域社会ビジョン大学院2013

◆公開講座「公共活動のリーダーを育て、活力ある地域づくり」実施
日　時:2013年7月30日（水）19:00～21:00
講　師:深尾昌峰 氏（龍谷大学 政策学部 准教授、一般財団法人地域公共人材開発機構 評議員）
場　所:那覇市職員厚生会館 多目的ホール
参加者:34名　受講料:3,000円

◆大学院実施
日時:2013 年8月31日（金）～11月2日（土）
講座数:座学14講座、ゼミ4コマ　　講師:14名
受講者:26名（全課程コース15名、トライアルコース11名）
受講料:全課程コース40,000円、トライアルコース:15,000円
（運営補助割り:30,000円、学割20,000円）
内容:全課程コース受講生は、3チームに分かれ、社会課題解決のための企画をチームで提案する。
場所:**天久ヒルトップ『地域交流室』**
主催:沖縄地域社会ビジョン大学院運営協議会

観光バリアフリーサポーター事業

NPO法人沖縄県脊髄損傷者協会と共同で、平成25年度「誰にでもやさしい観光地づくり形成事業」を県より受託し、県内5ヶ所（南部・中部・北部・八重山・宮古）で観光バリアフリーサポーター講座を実施。講座でのグループディスカッションの組み立てを担当した。
日　時:12/18（南部）、1/29（中部）、1/30（北部）、2/6（八重山）、2/7（宮古）　※5ヶ所とも13:00～17:00
主　催:沖縄県
運営体:NPO法人沖縄県脊髄損傷者協会
NPO法人まちなか研究所わくわく

2013年度実施事業-②

NPO法人事務力セミナー＆検定（初級）

NPO法人にとっての「事務」について学び、検定としてその成熟度をわかりやすくすることによりNPO法人の事務能力向上をめざすために実施。

日　時：2014年3月2日（日）　セミナー10：00～14：40、
検定15：00～16：00　解説16：00～16：30

参加者：セミナー：41名、検定：21名

受講料：セミナー4,000円、検定1,000円

講　師：加藤彰子氏（NPO 法人岡山NPO センター・NPO事務支援センター長）

わくわく空間の利用減と「わくわくnight」の開催

9月以降わくわく空間の利用がなかった。月に1度の情報交換会「わくわくnight」は今年度も実施した。

おきなわ市民活動支援会議へ参加

沖縄県内の市民活動支援に携わる機関の情報交換を行う「おきなわ市民活動支援会議」の月例会議へ参加。

NPO法人会計基準調査

NPO法人会計基準協議会による調査として、12月時点での会計基準導入状況の調査を実施した。

・NPO法人数：　599件（内閣府ポータルサイト内）
・調査数：　378件（H24年度報告書提出法人数）
法人数の約63％
・調査サンプル数：
197件（400法人に対する最低サンプル数を適用）
・調査方法：　内閣府のホームページにて公開されているデータより読み込み抽出

事業ふりかえり

①糸満市市民活動支援センターの運営

3年目となる今年度は、市民提案型まちづくり事業は申請数が増えたことで補助金が増額（60万円→100万円）、また丁寧に関係性を築いてきたことで35の団体を巻き込み、まちづくりカフェを開催。2014年度より3ヶ年度契約が可能になったことは大きな成果。

②沖縄地域社会ビジョン大学院2013の実施

県内大学にへ開催協力の打診を行ったが、協働開催には至らず。沖縄地域社会ビジョン大学院第3期を受講料のみの自主運営で実施し、25名が参加。3期を終え、修了生が51名へ。官民の公共人材育成プログラムへ。参加費に運営補助割等の設定をし参加の幅を広げた。修了後も受講生同士事業に関わるなどの結びつきができている。また当会としても、官民関わらず地域でチャレンジする人とつながる機会となっている。

③NPO法人沖縄県脊髄損傷者協会との事業協働

講座実施のための、広報活動や講座受付業務、また講座の中でのワークショップ運営を行った。沖縄県脊髄損傷者協会が障がい当事者団体のネットワーク等を活かしプログラムをつくり、当会は一部事務局サポート＆ワークショップの運営の実施等お互いの強みを用いて事業を実施することができた。

次年度方針

①「人」と「資金」循環の仕組みを深める3年の1年目へ（糸満市市民活動支援センター）

「自らが公共（地域）の担い手となる『住民自治』の実現」を目指して、①より開かれ育ち合う資金の循環プログラムとしての市民提案型まちづくり事業、②人の循環のしくみとしてのまちづくりカフェ、③地域の課題に向き合い、解決と協働のきっかけとなるテーマ型座談会の3つのプログラムを中心に事業を展開する。

少数の職員でも対応出来る体制の強化と情報の整理、協働のルール作りが必要。

②ビジョン大学院の次なる展開

引き続き自主運営をベースに展開。募集コストや実施期間短縮等による経費圧縮の検討、また実施期間やプログラムのメリハリをつくるなどの改良が必要。

③他団体との協働事業の実施

社会課題に取り組む団体と協働で、お互いの強みを活かした事業の実施を行っていく。

④市民活動を取り巻くインフラ整備

NPO法人事務力検定やNPO法人会計基準導入調査、協働環境調査等の市民活動を取り巻くインフラ整備に取り組む。

⑤わくわく空間の閉鎖と「わくわくnight」の継続開催

わくわく空間はサービスを休止し、わくわくnightを毎月定例開催。

地域のＮＰＯモデルとなる
継続的な市民活動の組織運営
― 総務部 ―

●2013年度　目標
①総務業務の効率化
②サービスの見えるホームページのリニューアル
③ボランティア・インターンなど活動への参加を広げる

実施概要

会計管理の改善により月次会計チェック
・2013年度より会計を下地が担当。糸満センター予算を会計ソフトで管理し、センターの会計作業の負担軽減を行った。12月より給与ソフトを導入。年末調整もソフトで対応。
・毎月の理事ミーティングにて月次会計確認を実施。

積立金つくれず
・積立金会計をつくるため、與儀理事を中心に検討したが、つくるまでにはいたらなかった。

メールマガ再配信
・毎月第4金曜に配信していたメルマガを再スタート。メルマガ配信に合わせてHPやブログの更新等を行った。ホームページでのサービスのリニューアルは至らず。

新スタッフが加わる
・糸満センターに、6月からアルバイトとして、玉城圭記が勤務。10月からは常勤スタッフとして新垣仁美が勤務。また短期インターンの参加があった。

NPO法改正に伴う定款の変更を実施

ビジョン大学院受講生から2名の正会員へ

健康診断の実施、退職金積み立ての実施（継続）

理事によるスタッフ面談の実施

次年度方針

①月次会計と決算業務のさらなる効率化
2013年度に立て直した会計体制をより強化していく。毎月の理事ミーティングでの月次会計報告は継続、糸満センターとの予算執行状況を共有するための情報共有を定期的に行う。

②中長期の収支管理。四半期ごとの黒字化
年度初めから中旬までの収支赤字の解消と四半期ごとの収支黒字化を目指す。

③累積赤字の解消に取り組む
四半期ごとの収支管理と資金繰りの管理を行いながら、3年をかけて累積した赤字の解消を行っていく。

④ホームページのアクセシビリティの向上
サービス内容や料金等提供する情報のリニューアル。日常の活動の定期的な発信。文字の大きさの選択によるアクセシビリティの向上に取り組む。

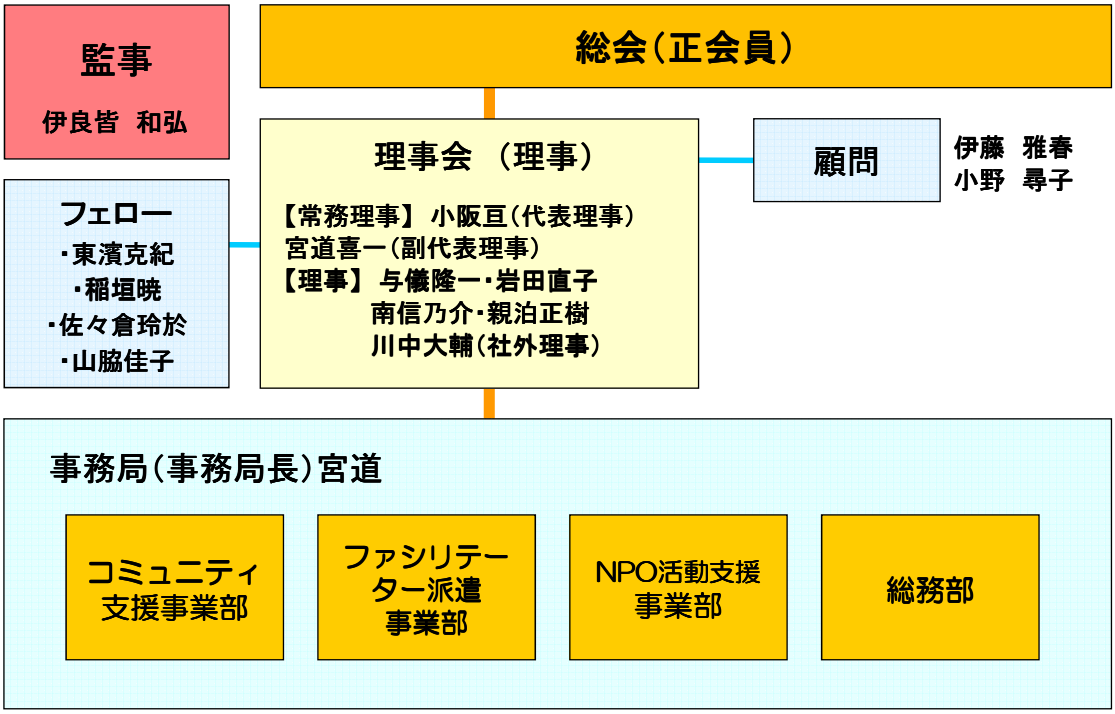
２０１３年度　組織運営

- 会員
  - 正会員17名／賛助会員1名（2口）／学生会員0名
- 通常総会の開催
  - 2013年5月17日(金) 19時30分より21時30分
- 決算理事会の開催
  - 決算理事会　2013年4月27日(金) 13時00分より18時00分、28 日(土) 10時00分より12時00分
- 理事会の開催
  - まちなか研究所わくわくの運営に関して月１回理事による運営会議を開催。必要に応じて、理事会を開催した。
  - ファシリテーター養成講座について理事が主体となり企画を行ったことや寺子屋プロジェクトにおいて対象地域でのコーディネートを担うなど、理事の事業運営への参画が進んだ。
- 加盟組織
  - NPO法人会計基準協議会（会員）
  - 久茂地小学校を存続させる会（構成団体）

２０１３年度　事務局体制

- 事務局長（宮道喜一）
- <u>コミュニティ支援事業部</u>
  - 常勤：宮道喜一、小阪亘、下地美香
  - ボランティア：15名（み～きゅる5名、寺子屋１０名）
- <u>ファシリテーター派遣事業部</u>
  - 常勤：宮道、小阪、下地
- <u>総務・経理部</u>
  - 常勤：宮道、下地
- <u>NPO活動支援事業部</u>
  - 常勤：小阪、宮道、下地、上原千加子（糸満専従）、新垣仁美（糸満専従）
  - アルバイト：中島佐紀（４月）、親泊正樹（7月）、玉城圭記（6～3月）、國吉舞維（2～3月）、大城潤（2月）、中村勇亮（２月）

２０１３年度　体制


監事
伊良皆　和弘
総会（正会員）
理事会　（理事）
【常務理事】 小阪亘（代表理事）
宮道喜一（副代表理事）
【理事】 与儀隆一・岩田直子
南信乃介・親泊正樹
川中大輔（社外理事）
顧問
伊藤　雅春
小野　尋子
フェロー
・東濱克紀
・稲垣暁
・佐々倉玲於
・山脇佳子
事務局（事務局長）宮道
コミュニティ支援事業部
ファシリテーター派遣事業部
NPO活動支援事業部
総務部